

“ おもしろくて ためになる 学びの共有 ”

日本教育カウンセラー協会秋田県支部機関誌

教育カウンセラー あきた

創刊号

2003年(平成15年)4月20日発行

なぜ，教育カウンセリングか



NPO 日本教育
カウンセラー協会会長
國分 康孝

(カウンセリングサイコロジスト Ph.D)

なぜ私が，教育カウンセリングを全国に普及，定着させようとしているのか。それは，これまでの伝統的カウンセリングでは，十分に学校教育に役立つとはいえないからである。

それはこういうわけである。学校は教育機関であり，治療機関ではない。教師の仕事は子どもを育てることであり，治療することではない。ところが，伝統的カウンセリングは心理療法志向である。つまり，個室の中で一対一の面接を一回50分ずつ何回も重ねるという方法である。これでは学校教育になじみにくい。学校教育では，集団に対して能動的にかかわっていくカウンセリングでないと現実的ではない。

たとえば，構成的グループエンカウンター，河村茂雄（都留文科大学教授）のアンケートQ-Uを用いた学級経営，キャリアガイダンス，サイコエジュケーション，グループワーク（例；特別活動）などがそれである。

今の日本のスクール・カウンセリングは，「臨床心理士でなければスクール・カウンセラーになれない」という風潮を生み出している。私は，心理療法の専門家である臨床心理士が，教育の専門家である教師に助言するこの制度は，非現実的であると思っている。それゆえに，教育とカウンセリングの両方になじみのある教育者（これをとりあえず，「教育カウンセラー」と称している）が，学校のカウンセリング事業の主役でなければならぬと主張したい。

私は，今，教育カウンセラーが全国に4万人誕生することを願っている。私のこの考えに賛同し，全国各地で教育カウンセラー協会の支部が設立されている。支部の誕生の仕方は様々である。秋田県支部の特徴は「slow but steady（遅々たれど着実な前進あり）」であったと思う。曾山和彦さんや阿部千春さんら，若い世代の準備が熟した頃，運よく私の世代の水戸谷貞夫先生（協会本部役員）が帰郷された。そして，支部長として，支部の超自我役を引き受けて下さった。協会としては，支部がひとつできるということは大変力強い出来事である。秋田県下で1000人，そして，全国で4万人の教育カウンセラーが輩出する日を私は指折り数えて待ちたい心境である。